

5 PE 登録体験記

PE 受験とノースカロライナ州への登録体験記

若林 孝、WAKABAYASHI Takashi, PE-0258, Electrical Engineering (Power)

○PE 受験日 2014 年

○受験場所東京

○PE 登録日 2016 年 8 月

若林と申します。私は日本で FE,PE を受験し、その後の登録に関しても JSPE のメンター制度によるアドバイスをいただきながら、このたびようやく PE 登録までできました。これもひとえに JSPE による日本での PE,FE 試験実施と経験のある PE の先輩の支援のおかげです、まずはこれまで PE の先輩方が大変ご苦労なさりこまでの支援制度を構築いただいたこと、その恩恵にあずかることができたことにお礼を申し上げます。

私の手続き概略としては、FE 試験 2013 年合格、2014 年 PE 合格通知を受け取ったのち、登録のための資料や推薦状を用意するのに時間がかかり、2016 年の 4 月まで書類が提出できずにおりました。そのあとノースカロライナ州のボードでの書類確認、審査に時間がかかり、その後の合格証も翌年まで届かず。といった非常に時間がかかったものとなりました。PE の登録が済んだ時、本当に嬉しかったですが、それまでの苦労とかかったお金を考えるとなかなかタフな資格だなと感じております。

「PE 取得のきっかけ」

私が PE 取得を志した理由は、運良く海外でエンジニアリング系の学科に留学を行うことが決まったとき、留学成果の一つとして PE 資格を取ったらいいのではと考えたのが始まりです。その当時カリフォルニアにおりましたので、FE 試験の申し込みまでしたのですが受験せずに帰国。JSPE にて日本で受験ができることがわかったこと、現在、海外コンサルティング業務を行っており PE 資格が非常に仕事にプラスとなると考えることが多くなったため、受験を決めました。

「FE 試験、PE 試験 受験対策」

FE 試験については、王道の FE Review Manual (Second Edition) by Michael R.Lindeburg の資料を購入して勉強しました。それを細かい章ごとに分け勉強していったのですが、本当にわからない分野のところは諦めて、点数が取れそうなところを増やすような勉強の仕方をしたのを覚えております。

逆に PE の試験については、PE Principles and Practice of Engineering by NCEES、Electrical Engineering Reference Manual for the Power, Electrical and Electronics, and Computer for PE Exams by John A Camara (神保町の古本屋で安く入手できて本当に嬉しかったのを覚えています。)そして Power System Analysis by John J.Grainger William D. Stevenson Jr.の参考書を購入し勉強しました。この最後の資料は大学の教科書によく使われているので、回答がわかりづらい場合は、その本を授業で使っている大学が作成している回答例を見つけるなどして勉強しました。また PE 試験は持ち込

み可能な試験だったと思います、このため NFPA70 と National Electrical Safety Code についても試験前にざっと読んでどこに何があるか程度はめどをつけておきました。みなさんなさっていると思いますが、試験時に自分がすぐ関連の箇所を見つけることができるよう、ページにタブをつけてみたりといった工夫もした覚えがあります。

全体としては、ある程度の速さで英語をざっと読める能力があると、試験勉強も効率的に進むのではないかと思います。FE では慣れない英単語を覚えることも必要となり大変ですが、PE 試験は自分の専門だったので意外と簡単だったような気がします。非常に高価な試験ですので、運良くどちらも一度の受験で合格できたのは幸運でした。

「PE 登録」

登録先の州を選ぶにあたり、まずは JSPE が各州ボードに確認した JSPE 試験合格者の扱いを見つけたため読んでみたのですが、そのなかで私の選定ポイントが決まり、居住事実が必須でないこと、IRS の SSN や Taxpayer 番号が必要ないこと、そして可能なら大学カリキュラムの NCEES による認証手続きが必要ないことを重視しました。この資料では North Carolina だけが、実務経験がある長さ以上ある登録申請者については NCEES 認証について必須でないように説明が読めるなと思い、大学教育の翻訳が面倒だった私はまずは North Carolina 州の登録を目指してみることにしました。結果として、手続きのなかで先方の担当者から "ABET と同じレベルの教育についての認証を NCEES か他のひとにしてもらえ" との指示もあったため、ノースカロライナ州も基本は ABET 認証がいるものと推測します。皆様にはやはり大学のカリキュラムを翻訳、NCEES 等で認証してもらい、自分の仕事に有利でかつ取得後の継続が簡単な州を選ばれることをオススメします。

申請書作成はカリキュラム翻訳を行っていないにもかかわらず、大変でした。例えば推薦状についても社内には PE がほとんどいなかったため、推薦状をいただくために仕事でお付き合いのある他会社の PE の先輩方にもお願いし、推薦いただく方にお手数をかける結果となりました。このような面倒な手続きを引き受けてくださった PE の先輩方に本当に感謝しております。申請書の公証も必要だったのですが、私は東京の米国大使館にて公証を取得しました。このような感じで仕事の合間の申請準備を行っていたため、合格から申請までほぼ一年半もかかってしまい、焦りもありました。なかなか前向きに慣れず、JSPE のメンター制度をご紹介していただき、先輩方に私の PE 登録についてアドバイスいただけ、なんとか頑張ることができました。

このようにやっとこさ申請をしたのですが、ボードの担当者からの受領連絡もなく、質問をしても紋切り型で全くお門違いな回答が帰ってくるなど、非常に苦労しました。特に NCEES の教育バックグラウンド認証についてはずっと認められず、こちらのメールでの説明も理解されないなどストレスが溜まるものでした。そんな中、担当者の上司から申請書がコンプリートしていないとのメールが届いたため、再度こちらの認識を説明、ボードでの審査をお願いしたところ、結果が NG になるかもしれないがボードに確認する。との回答を得ることができました。相手としてはできるだけ合格させるために努力してくれていたようです。

その後の結果についても 2017 年 12 月まで連絡がなく、こちらから確認すると 10 月末に郵便メールを送ったとのこと。詳しく調べると、PE 登録の Certificate も送付したのだが US Post をつかって数回送付したのだが戻ってきてしまっていたことが判明しました。対策として FedEx の登録を行いこちらのアカウントを提示するなど物

の受け取りにもトラブルがでてしまい、非常にストレスのたまる手続きが 2017 年 4 月まで続きました。

「最後に」

PE 資格については、米国では非常に重要な資格であり海外での業務に役に立つことは私も信じております。ただ一方で取得には費用も非常にがかかりますし前述のように日本に比べて貧弱なサポートしか望めない運営者へ自分の正当性を証明する必要や、こちら側での工夫が必要なこともあり、受験と登録を目指す方については面倒なことを我慢強く行うという覚悟をご自分で確認してから、取得を目指す方が良いと思います。

最後になりましたが、私の受験に関して直接・間接問わず様々お世話になった皆様に改めてお礼申し上げます。